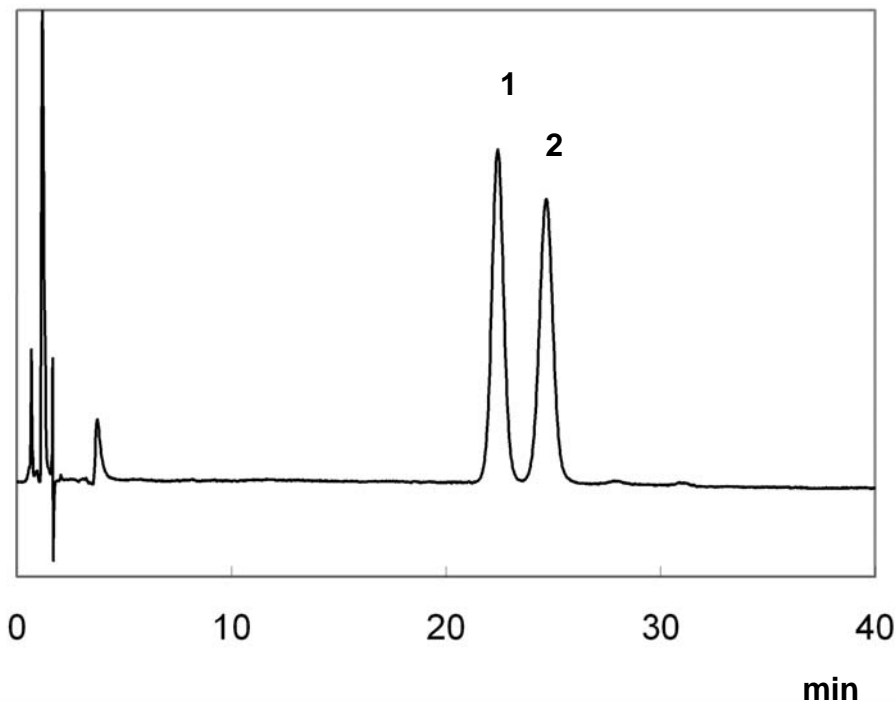




# ニンジン(人参)の成分定量法:システム適合性

## ーギンセノシドRg1ー

ー第十六改正 日本薬局方よりー



Column: TSKgel ODS-100V 5  $\mu$ m  
(4.6mmI.D. x 15cmL)

Column temp.: 30  $^{\circ}$ C

Eluent: H<sub>2</sub>O : CH<sub>3</sub>CN = 4:1

Flow rate: 1.7 mL/min

Detector: UV (203nm)

Injection vol.: 10  $\mu$ L

Concentration: 100  $\mu$ g/mL

Samples:

1: Ginsenoside Rg1

2: Ginsenoside Re

$R_s = 2.0$



# ニンジン(人參)の成分定量法

## ーギンセノシドRg1ー

ー第十六改正 日本薬局方よりー

### 定量法

#### (1) ギンセノシド Rg1

##### 試験条件

検出器: 紫外吸光光度計(測定波長: 203 nm)

カラム: 内径 4.6 mm、長さ 15 cm のステンレス管に 5  $\mu$ m の液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリル化シリカゲルを充てんする。

カラム温度: 30 °C 付近の一定温度

移動相: 水/アセトニトリル混液( 4:1)

流量: ギンセノシド Rg1 の保持時間が約 25 分になるように調整する。



# ニンジン(人參)の成分定量法

## ーギンセノシドRg1ー

ー第十六改正 日本薬局方よりー

### 定量法

#### (1) ギンセノシド Rg1

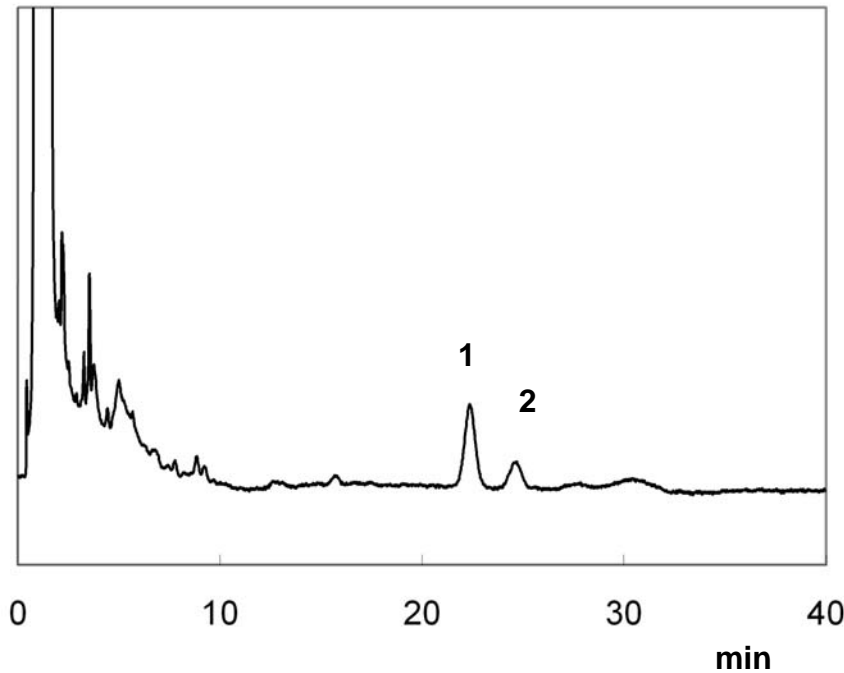
##### システム適合性

システムの性能: ギンセノシド Rg1 標準品及びギンセノシド Re 1 mg ずつを薄めたメタノール(3→5) に溶かして 10 mL とする。この液 10  $\mu$ L につき、上記の条件で操作するとき、ギンセノシド Rg1、ギンセノシド Re の順に溶出し、その分離度は 1.5 以上である。

# ニンジン(人参)の成分定量

## ーギンセノシドRg1ー

ー第十六改正 日本薬局方よりー



Column: TSKgel ODS-100V 5  $\mu$ m  
(4.6mmI.D. x 15cmL)

Column temp.: 30  $^{\circ}$ C

Eluent: H<sub>2</sub>O : CH<sub>3</sub>CN = 4:1

Flow rate: 1.7 mL/min

Detector: UV (203nm)

Injection vol.: 10  $\mu$ L

Samples:

1: Ginsenoside Rg1

2: Ginsenoside Re